

第4学年 音楽科 学習指導案

日 時 令和4年7月6日（水）

第5校時 13：25～14：10（45分）

対 象 第4学年4組34名

学校名 大田区立松仙小学校

授業者 市川 真帆

会 場 1階 体育館

校内研究のテーマ

友達と高め合う児童の育成

～できた・見方・伝え方の学習を通して～

1 題材名 「いろいろなリズムを感じ取ろう」

2 題材の目標及び題材の評価規準

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
題材の目標	拍子やリズムなどと曲想との関わりに気付き、拍によって歌ったり演奏したりする技能や、反復や変化などの音楽の仕組みを用いてリズムアンサンブルをつくる技能を身に付ける。	曲の特徴を捉えた表現や、どのようにまとまりを意識した音楽をつくるかについて、思いや意図をもつ。	拍子やリズムが生み出すよさや面白さを感じ取り、それらを生かして表現したり、友達と協働してリズムアンサンブルをつくったりする学習に親しむ。
題材の評価規準	①[知]曲想と音楽の構造や歌詞の内容との関わりについて気付く。 ②[知]曲想と音楽の構造との関わりについて気付いている。 ③[知]音やフレーズのつなげ方や重ね方の特徴について、それらが生み出すよさや面白さなどと関わらせて気付いている。 ④[知技]いろいろな音の響きやそれらの組合せの特徴について気付くとともに、思いや意図に合った表現をするために必要な、音楽の仕組みを用いて、音楽をつくる技能を身に付けて音楽をつくっている。	[思]①旋律、強弱、拍を聴き取り、曲の特徴を捉えた表現を工夫し、どのように歌うかについて思いや意図をもっている。 [思]②リズム、呼びかけとこたえ、反復を聴き取り、曲の特徴を捉えた表現を工夫し、どのように演奏するかについて思いや意図をもっている。 [思]③言葉のリズム、反復、呼びかけとこたえや変化が生み出すよさや面白さを生かし、音を音楽へと構成することを通して、どのようにまとまりを意識した音楽をつくるかについて思いや意図をもっている。	[態]①拍や強弱の変化と曲想との関わりに興味をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に歌唱の学習活動に取り組もうとしている。 [態]②曲の特徴を捉えて表現する学習に興味をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に器楽の学習活動に取り組もうとしている。 [態]③リズムのつなげ方や重ね方のよさや面白さに興味・関心をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に音楽づくりの学習活動に取り組もうとしている。

3 指導観

(1) 学習指導要領との関連（本時主題材）

A 表現(3)音楽づくり

ア (イ)音を音楽へと構成することを通して、どのようにまとまりを意識した音楽をつくるかについて思いや意図をもつこと。

イ (イ)音やフレーズのつなげ方や重ね方の特徴

ウ (イ)音楽の仕組みを用いて、音楽をつくる技能

B 鑑賞(1)

イ 曲想及びその変化と、音楽の構造との関わりについて気付くこと。

〔共通事項〕(1)

ア 音楽を形づくっている要素を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考えること。

〈本題材の学習において、児童の思考・判断のよりどころとなる主な音楽を形づくっている要素〉

「リズム」、「反復」、「呼びかけとこたえ」「変化」

(2) 題材観

この題材では、これまでに身に付けてきた拍や拍子、リズムに対する感覚やそれを表現するための能力をより伸ばしていくことに重点を置いて学習を進めていく。拍子としては、3年生で学習した4分の2拍子、4分の4拍子に加えて、新たに8分の6拍子でできた教材を取り上げている。また、手拍子のアンサンブルからなる器楽教材では、拍にのって表現することの楽しさを感じ取りながら、互いのパートの音を聴きながら演奏する力を伸ばしていく。

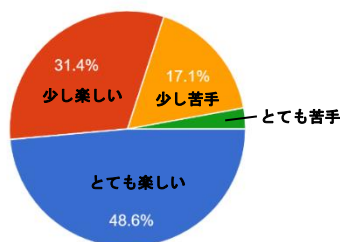
本時で扱う「言葉でリズムアンサンブル」では、音楽の仕組みを生かしながら4文字の言葉のリズムを組み合わせる言葉によるリズムアンサンブルをつくる学習を通して、使うリズムによって曲想が異なることに気付き、表現を工夫することができるようにする。これまで身に付けてきた拍や拍子、リズムに対する感覚をより一層高めることができるようにしたい。そのために、表現領域と鑑賞領域を関連付けて、効果的な学習が展開できるようにする。表現領域の音楽づくりの分野では、今からつくる音楽の感じをイメージしたり、今まで学んだ音楽の仕組みと曲想の関わりを生かして見通しをもったりすることができるように、音楽と対話する活動の充実を図るようにする。ペアで音楽をつくる場面において、個人の思いや意図を伝え合い友達とつなげて音楽をつくったり、友達との対話を通してペアでテーマを決めて、共通の思いや意図を基に音楽をつくったりする活動を設定する。そうすることで、思いや意図を基に試行錯誤しながら音楽をつくる学習に粘り強く取り組んだり、協働して音楽をつくる中で友達の考えやアドバイスを基に自らの学習を調整したりすることにつながるようにしたい。

(3) 児童観

今年度より授業を受けもっている。4年4組の児童は、音楽の様々な活動に興味をもち、常に楽しみながら取り組むことができる児童が多い。音楽科の学習に対する興味・関心が高く、進んで表現や鑑賞の様々な活動に取り組んでいる。拍にのって歌ったり演奏したり、リズムを手拍子することを楽しむ児童が増えてきた。しかし、音楽の仕組みを生かして思いや意図をもって音楽をつくったり、友達と協働して音楽をつくる楽しさを実感したりするまでには至っていない児童もいる。そこで本題材の学習において、リズムによって曲想が異なることに気付かせ、反復や変化など音楽の仕組みが生み出す面白さを生かして、思いや意図をもって友達と協働して音楽をつくることができるようにする。

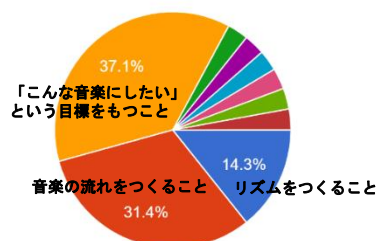
1. 音楽づくりは好きですか？

35 件の回答



2. 音楽づくりでむずかしいと感じるときは？

35 件の回答



音楽づくりは「楽しい」反面、苦手意識もあるという実態がある。アンケート1では、「楽しい（「少し楽しい」も含む）」と答えた児童は8割程度いたが、「苦手」への回答数もあった。児童の「できた」という実感を得られえらるるにすることで、「楽しい」と思って活動できる児童を増やしていきたい。

また、アンケート2を見ると、児童は、つくりたいイメージや目標をもつことに難しく感じており、音楽の流れをつくったり、リズムをつくったりすることにも困難を感じていることが分かる。

そこで、まず始めに、自分が選んだ言葉のもつイメージを膨らませ、ペアで話し合いながら構想を練る時間を十分に取り、目指す音楽を明確にさせる。また、スクールタクトの活用により、創作過程を「可視化」する。これにより、音をどのように構成しようとしているかが確かめられる。また、つくった音楽を記録（保存）させる。

(4) 教材観

歌唱教材：風のメロディー a8小節+a'8小節の一部形式

8分の6拍子の学習を目的に作曲されたオリジナル曲。歌詞や旋律、和声ともに優しさあふれ、曲全体の雰囲気を通して8分の6拍子のもつ柔らかい表情を味わうことができる。付点4分音符を1拍とすることで、2拍子のように感じて歌うことができる。優しい感じをイメージしやすい歌詞の内容や曲想なので、柔らかい声で歌う学習に適している。

旋律の音の動きから、曲の山を捉えやすい楽曲である。曲の山を中心として前後の強弱を工夫する歌唱表現の学習に結び付けることができる。強弱記号の名前と意味を理解し、曲の山を生かした歌い方を工夫したい。

風のメロディー

平野祐香里 作詞 / 鹿谷美穂子 作曲

♩ = 56~60

mp

1 し ず か に ゆ れ る し ろ い は な ー
2 よ ぞ ら の ほ し の さ さ や き は ー

か ぜ の こ こ ろ う た う よ う に ー
ゆ め み る よ う な オ ル ゴ ー ル よ ー

mf

や さ し い か ぜ の お く り も の ー か
き ら め く う た の お く り も の ー ほ

mp

ぜ の メ ロ デ ィ ー こ こ ろ の ー せ て ー
し の メ ロ デ ィ ー ゆ め を の ー せ て ー

器楽教材：クラッピングファンタジー 第7番 楽しいマーチ

鍵盤ハーモニカの旋律とピアノ伴奏を伴った手拍子二部の合唱曲。A(a4+a'4)+B(b4+b'4)+A(a4+a'4)の三部形式。Aの部分では手拍子1と手拍子2が対話するように交互奏する。リズムカルな伴奏にのって4分音符の分かりやすいリズムが展開されており、拍にのって手拍子を演奏する楽しさを味わいやすい。アの掛け声が拍にしっかりとのことと、その拍を全員が感じることが大切である。全員が同じ拍感をもつことで、一体となって演奏することの楽しさを体感することができる。

イの手拍子1では、2小節のリズムが4回繰り返され、手拍子2がそれを1拍遅れで追いかけている。二つの繰り返されるリズムパターンを重ねることで、伴奏に合わせたリズム演奏を楽しむことができる。

ウでは、二つのパートが呼びかけとこたえの模倣になっている。2小節ごとに少しずつリズムが変化し、いろいろな呼びかけとこたえをしているところに面白さを感じることができる。また、最後は2拍ごとの呼びかけとこたえのあと、一緒に合わせてイにつながっており、伴奏のクレッシェンドと合わせて高揚感をもってイを再び演奏できる構成になっている。

クラッピング ファンタジー 第7番
楽しいマーチ

♩ = 116 ~ 126 長谷部匡俊 作曲

イ

[始めのかけ声]
(1人で)

ワン トゥー ワン トゥー スリー フォー

手拍子 1

手拍子 2

Fine (終わり)

Fine (終わり)

ウ

mf

mf

(休ス)

*mf*₁

(V)

2

5

D.S. (全から)

D.S. (全から)

音楽づくり教材：言葉でリズムアンサンブル（本時主教材）

一つの言葉を素材にしたリズムの音価を拡大、縮小させて三つのリズムをつくり、音楽の仕組みを生かしながら、それらの言葉のリズムを組み合わせるリズムアンサンブルをつくる教材である。また、言葉のもつイメージとリズムの組み合わせの面白さを感じ取ることができる。小さな反復、大きな反復、呼びかけとこたえ、変化を生かしながら言葉のリズムを組み合わせるリズムアンサンブルをつくり、友達とリズムをつなげたり重ねたりしてつくる楽しさを味わうことができる。

また、選択できる言葉はイメージが広がりやすく子供にとって身近な言葉を教師が設定している。イメージをもち易く、音楽の構成に様々なパターンで作り上げられそうな言葉として、教師が選定した言葉から選ぶ。言葉から思い浮かぶイメージを基に、児童が目指す音楽のイメージをもって音楽づくりができるようにする。

鑑賞では、自分の中の言葉がもつイメージを、友達はどのように想像してつくったのかと楽しんで鑑賞することも期待される。

選択できる言葉	イメージの想定
おひるね	・眠い様子 ・穏やかなイメージ ・夢の中
たいいく	・活発な内容 ・準備運動
すいえい	・すいすい泳ぐ様子 ・プカーっと浮かぶ
おわかれ	・悲しい気持ち ・新たなスタート
めざまし	・目覚まし時計の音 ・まだ眠い様子
えんそく	・友達とおしゃべり ・帰ってきて疲れた様子

くり返しや変化を使って、リズムアンサンブルをつくりましょう。

言葉でリズムアンサンブル。

4文字の言葉と、それをもとにした ♪、イ、ウ のリズムを使って、リズムアンサンブルをつくりましょう。

4文字の言葉の例

おまつり

学校のまわりの音もいろいろ聞こえていいね。

♪ おまつり

♪ おまつり

ウ おまつり

使うリズム

1 みんなで下の ♪ をえんそうして、♪、イ、ウ のリズムのちがいを感じ取りましょう。

おまつり

おまつり

♪ おまつり

♪ おまつり

ウ おまつり

使うリズム

2 下の  を参考にしながら、2つのパートに分かれている8小節のリズムアンサンブルをつくりましょう。

   のよびかけに  がこたえようようにリズムをつなげました。

 お ま つ り ・ ・ ・ ・ お ま つ り ・ ・ ・ ・
 ・ ・ ・ ・ お ま つ り ・ ・ ・ ・ お ま つ り ・ ・ ・ ・

2小節のあとまり

くり返し

2小節のあとまり

 2小節のあとまりをくり返しました。

 変化をつけるために、
 ② だけで
 よびかけました。

お ま つ り ・ ・ ・ ・ お ま つ り お ま つ り ・ ・ ・ ・ お ま つ り
 ・ ・ ・ ・ お ま つ り お ま つ り ・ ・ ・ ・ お ま つ り

②

変化 →

 にぎやかに笑っているの、
 ② のリズムに、 や  の
 リズンをまねました。

③ つくった言葉のリズムアンサンブルを、
 拍ののってえんそうしましょう。

声の高さや強さを
 くらべて、
 曲の感じが変わって楽しんだよ。



4 課題解決の視点とテーマに迫る手立て

課題解決の視点	テーマに迫る手立て
①児童が「できた」と感じるための工夫	目指す音楽のイメージ設計 ・目指す音楽をもつことで思いやイメージをもち、「できた」姿を明確にもたせる。イメージ通りにつくることが「できた」という楽しさを実感できるよう、自分たちなりの音楽づくりに取り組めるようにする。目指す音楽に近づけられるよう、4文字の言葉から思い浮かぶイメージを話し合いながらグループで共有して整理する。 聴き合い ・他のグループがつくった音楽のよさを感じたり、自分たちの音楽に生かしたりすることができるよう、互いの演奏を聴き合い、よいところを見つけて伝える時間を設定する。演奏を聴いて見付けたよいところを、自分たちの演奏に取り込みながら何度も改善を重ねてつくり上げていく。こだわりをもってつくり上げていく音楽づくりの楽しさと、自分や友達のよさを見付ける相互評価から、自信をもって演奏ができるようになることを目指す。 言葉掛け ・音楽の仕組みを用いた音楽づくりにおいて、目指す音楽に繋がる考えや発想が見られたときに賞賛し価値付ける。 ワークシート ・題材を通して振り返ることができるようにする。「知識」が増えていることやそれを活用することができるようになることを実感させられるよう、音楽づくりについての観点ごとに振り返り、自らの成長や変容を実感させ、達成感を味わうことができるようにする。
②自他の音楽の見方を知るための工夫	タブレットの活用 ・ジャムボードで相手の楽譜を見ることで、視覚的に工夫を確かめることができる。音楽の仕組みを工夫して使い、それらの視点をもって聴き合うようにする。また、目指す音楽のイメージを記入し、常に目標に向かって音楽づくりができるようにする。 構成の手本 ・第7時では、4年4組の「おまつり」と全員で1つのリズムアンサンブルをつくり、本時で行う音楽づくりの構成の仕方や考え方をおさえる。どのようなよさや面白さがあるのかについても、全体で共有する場面を設ける。友達がどのような意図で構成を練ったのかが分かるようにする。 中間発表 ・リズムのつなげ方や重ね方に、よい工夫がされているグループの演奏を見聴きし、「終わり方」「余白（休符）を効果的に使う」「明確な意図をもった構成」「強弱や音高等の声での表現」等の工夫を用いているペアを教師が意図的に取り上げ、全体に共有することで、発想を膨らませたり聴き合いや最終発表の演奏を聴いたりする際の視点とする。
③友達と音楽的な視点で思いを伝え合うための工夫	聴く視点と伝え方 ・相手のリズムアンサンブルを聴く視点として、①知る（どのようなイメージで音楽の仕組みを使ったか）②聴く（音楽の仕組みがどのように使われているか）③伝える（どのような音楽のよさや面白さがあったか）を設定する。 ・ペアグループのよかったところを視点に沿って聴き、音楽の仕組みの言葉を用いて伝える。よいところを見付けることで自分の音楽的な感性を増やし、友達の表現の工夫の面白さやよさを感じ取り、自分の音楽に生かせるようにする。 掲示 ・児童が考えを音楽的な視点で伝えられるよう、題材で学んだ知識となる音楽の仕組みを掲示して、常に見ることができるようにする。 人数 ・自分の考えや思いをもち、相手に伝えたり話し合いが活発に進んだりできるよう、4人グループでの音楽づくりを行う。また、更なる発想の工夫を得られるよう、ペアグループで互いの演奏を聴き伝え合う時間を設ける。

4 題材の指導計画と評価計画（9時間扱い）

次	時間	◎ねらい ○学習内容 ・学習活動	知・技	思	態
第一次		◎「風のメロディー」の曲想や音楽の構成との関わりを感じ取り、6拍子の拍にのって、強弱記号を使いながら工夫して歌う。			
	第1時	○曲想をつかみ、8分の6拍子の特徴を感じ取って歌う。 ・曲名や歌詞から思い浮かんだ情景やイメージについて考える。 ・楽曲を聴いて感じたことから曲想をつかんで歌う。 ・8分の6拍子の特徴を感じ取り、8分の6拍子の意味を知る。 ・曲想に合わせて体を動かしたり、指揮のまねをしたりしながら歌う。 ○強弱記号を知り、歌い方を工夫し、楽曲の目標とする歌い方を考える。 ・mf、mp、＜、＞の強弱記号を知り、楽譜で確かめながら歌う。 ・本時を振り返り、どのように歌いたいか考えてワークシートに書く。	① 知 (ワークシート)		
	第2時	○旋律の音の動きを感じ取り、拍にのって歌う。 ・拡大楽譜に書かれた旋律線を指さしながら歌い、旋律の音の動きを感じ取る。 ・旋律の音の動きやフレーズを生かして、丁寧に発音しながら歌う。 ○ペアで歌い方の工夫を考え、発表から工夫の仕方の考えを深める。 ・ペアごとに、強弱の変化と旋律の音の動きとの関係を生かした歌い方を工夫する。 ・歌ったり話し合ったりして、試しながら工夫する。 ・ペアグループになって、互いの演奏を聴き合い、よいところを見付けたり助言したりする。 ・工夫したことを生かして、クラス全体で歌う。		① (ワークシート)	① (行動観察・ワークシート)
第二次		◎「クラッピング ファンタジー」の反復や呼びかけとこたえのリズムの面白さを感じ取りながら手拍子のリズムと鍵盤ハーモニカの旋律を合わせて演奏する。			
	第3時	○反復や呼びかけとこたえのリズムの面白さを感じ取りながら手拍子のリズムを演奏する。 ・出てくるリズムパターンを打ち、手拍子のリズムに親しむ。 ・指導用CDを聴き、イの部分は8拍のリズムパターンの繰り返し、ウの部分は4拍ごとの呼びかけとこたえになっていることに気付く。 ・fの名前や意味を確認する。 ・音楽に合わせて、手拍子1・2のパートを演奏する。 「手拍子1」「手拍子2」のグループに分かれ、互いの音を聴きながら、手拍子のリズムアンサンブルを楽しむ。 ○鍵盤ハーモニカの旋律を演奏する。 ・鍵盤ハーモニカのパートを階名唱で歌う。 ・指使いやリズムに気を付けながら、鍵盤ハーモニカの旋律を演奏する。	② 知 (ワークシート)		
	第4時	○友達と合わせながら、手拍子のリズムと鍵盤ハーモニカの旋律を合わせて演奏する。 ・拍にのって鍵盤ハーモニカのパートを演奏する。 ・同じパートの友達と音をそろえることを意識し、友達の音をよく聴いたり、拍にのったりしながら演奏する。 ・他パートの音を聴き、手拍子のリズムの重なりや呼びかけとこたえ、手拍子のリズムと鍵盤ハーモニカの旋律の重なり面白さを感じ取りながら演奏する。			
	第5時	○息を合わせるためにはどのような意識をするとよいか考え、グループごとに工夫しながら演奏する。 ・お互いの音をぴったりと合わせることが大事であると気付く。 ・息の合った演奏の仕方を考えながら練習する。 ○グループごとに発表し、工夫を共有することで考え方を広げる。 ・グループごとに発表し、考えたことを共有する。 ・分かったことを意識して学級全体で演奏する。		② (ワークシート)	② (行動観察・ワークシート)

◎「言葉でリズムアンサンブル」の反復、変化、呼びかけとこたえの音楽の仕組みを使い、音楽の構成を工夫してリズムアンサンブルをつくる。				
第三次	第6時	○常時活動から三つのリズムと音楽の仕組みを知り、発想を得る。 ・一つの言葉のリズムを拡大、縮小させたア、イ、ウのリズムを知る。 ・リズムをつなげたり重ねたりして、「㊦反復」「㊧反復」「変化」「呼びかけとこたえ」を体験する。 ・言葉による表現の仕方の違いを知る。 ○鑑賞から、楽曲の面白さを見出す。 ・どのような仕組みが使われているか注目して演奏する。 ・「㊦反復」「㊧反復」「変化」「呼びかけとこたえ」の技を知る。 ・「終わり方」「余白（休符）を効果的に使う」「明確な意図をもった構成」に工夫されていることを知る。 ・音楽の仕組みを使うことによる面白さを伝え合う。	③知 (ワークシート)	
	第7時	○常時活動から音楽遊びから音楽づくりに必要な力を身に付ける。 ・リズム遊びをしながら、「㊦反復」「㊧反復」「変化」「呼びかけとこたえ」の技を確認する。 ○学級のリズムアンサンブルをつくり、音楽の仕組みを使ってつくる過程を学ぶ。 ・言葉のイメージから目指す音楽を考え、音楽の仕組みを使って「4-4のおまつり」をつくる。 ○ペアでテーマと目指す音楽を考え、自分たちの音楽に思いをもつ。 ・グループごとに使う言葉を決め、どのような音楽にしたいか思いをもち話し合う。		
	第8時（本時）	○リズムのつなげ方や重ね方を工夫して、グループのリズムアンサンブルをつくる。 ・「㊦反復」「㊧反復」「変化」「呼びかけとこたえ」を使って、グループごとに8小節のリズムアンサンブルをつくる。 <ルール> ・音楽の仕組み「㊦反復」「㊧反復」「変化」「呼びかけとこたえ」を使いながらつくる。 ・8小節のリズムアンサンブルをつくる。 <つくり方> ・演奏して試すこと・話し合うことを繰り返してつくる。 ・試してどのような感じがしたか話し合う。 ・何度もつくり直して目指す音楽のイメージに近づける。 ・教師が取り上げるグループの音楽を見て、「終わり方」「余白（休符）を効果的に使う」「明確な意図をもった構成」「強弱や音高等の声での表現」を知り、仲間のよさを取り入れながらつくる。 ・ペアグループになって、互いの演奏を聴き合い、よいところを見つけて自分たちの音楽に生かしながらつくる。 ・グループごとに8小節のリズムアンサンブルをつくる。	③ (ワークシート)	
	第9時	○リズムのつなげ方や重ね方を工夫して、リズムアンサンブルを仕上げる。 ・前時で深めた工夫を話し合い、リズムアンサンブルを仕上げる。 ○ペアごとにつくったリズムアンサンブルを最終発表し、音楽の面白さを感じ取りながら視点に沿って聴き合う。 ・どのようなことを工夫したのか発表してから演奏する。 ・学んできた音楽の仕組みの使い方、工夫したよい点を見付けて聴くようにする。	④知技 (演奏聴取)	③ (行動観察・ワークシート)

5 本時（全9時間中の第8時間目）

（1）本時の目標

言葉のリズム、反復、呼びかけとこたえや変化が生み出すよさや面白さを生かし、音を音楽へと構成することを通して、どのようにまとまりを意識した音楽をつくるかについて思いや意図をもつ。

（2）本時の展開

○学習内容 ・学習活動	・留意点 ◇評価
○学習の流れを確認する。 ・めあてを確認し、常時活動を行う。 ・前時までの内容を復習し、目指す音楽のイメージの確認をする。 リズムのつなげ方や重ね方を考え、グループのリズムアンサンブルを工夫しよう ○リズムのつなげ方や重ね方を工夫して、グループのリズムアンサンブルをつくる。 ・「㊦反復」「㊤反復」「変化」「呼びかけとこたえ」を使い、グループごとに8小節のリズムアンサンブルをつくる。 ＜ルール＞ ・「㊦反復」「㊤反復」「変化」「呼びかけとこたえ」を使う。 ・8小節のリズムアンサンブルをつくる。 ＜つくり方＞ ・演奏して試すこと・話し合うことを繰り返してつくる。 ・試してどのような感じがしたか話し合う。 ・何度もつくり直して目指す音楽のイメージに近づける。 ＜予想される児童の反応例＞ c:同じリズムを繰り返したり、重ねたりしたら面白そう。 c:盛り上がって終わる音楽にしたいから、最後は小さな反復を使ってリズムを重ねてみよう。 ・リズムのつなげ方や重ね方に、よい工夫がされているグループの演奏を見聴きして、仲間のよさを取り入れながらつくる。 ・ペアグループになって、互いの演奏を聴き合い、見付けたよいところを伝える。 ・グループで試しながら工夫してつくる。 ○本時の学習を振り返り、見通しをもつ。 ・ワークシートに振り返りを書く。 ・次の最終発表に向けて見通しをもつ。	・本時の流れを確認することでねらいを明確にする。 ・児童同士で活動がしやすいように一定の拍を流し、拍の流れにのって手拍子と言葉で演奏できるようにする。 ・音楽をつくる楽しさを味わうことができるよう、いろいろな表現の仕方を試しながらつくる過程を大切に指導する。 ・2人で一台、ジャムボードを活用することで、音楽の仕組みを視覚的にも確認し、ペアグループの活動でも見ながら聴き合うことで工夫を確かめながら聴くことができるようにする。 ・友達との対話を通して、4人グループで思いや意図を基に音楽をつくる活動を設定することで、様々な考えを出し合いながら自らの学習を調整できるようにする。 ・「終わり方」「余白（休符）を効果的に使う」「明確な意図をもった構成」「強弱や音高等の声での表現」等の工夫をしているグループの音楽を取り上げ紹介することで、目指す音楽に近づけるための手立てを示す。 ・見付けたよいところを音楽の仕組みの言葉を使いながら視点に沿って伝えるようにすることで、友達の表現の工夫の面白さや良さに気付く力を育む。 ◇思③言葉のリズム、反復、呼びかけとこたえや変化が生み出すよさや面白さを生かし、音を音楽へと構成することを通して、どのようにまとまりを意識した音楽をつくるかについて思いや意図をもつことができる。（ワークシート）

6 言葉でリズムアンサンブル 評価 (第三次)

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
A	・音楽の仕組みを使うことによって生まれる効果を理解している。(知識) ・音楽の仕組みの使い方の違いによるよさや面白さに気付く、その効果を理解している。(知識) ・目指す音楽をつくるために必要な音楽の仕組みを効果的に生かして作ることができる。(技能)	・目指す音楽を表現するために得た知識を使って、思いを表すために工夫して生かすことができる。 ・目指す音楽を明確にもち、達成させるために様々な構成の工夫を使いながら思いを表現するために考えることができる。 ・友達の音楽から、よさや面白さを見付け、初めの音楽に対して思いを広げながら、考えを取り入れて生かすことができる。	・リズムのつなげ方や重ね方のよさに興味・関心をもち、学びを生かそうと積極的に取り組んでいる。 ・明確にもった目指す音楽づくりに向けて、友達と積極的に話し合ったり試したりして、意見を出し合いながら取り組んでいる。 ・自分の音楽に具体的な思いをもち、友達と話し合いながらよりよい音楽をつくろうと積極的に活動に取り組んでいる。
B	・音楽の仕組みを理解している。(知識) ・音楽の仕組みによるよさや面白さに気付いている。(知識) ・音楽の仕組みを生かして作ることができる(技能)	・得た知識を使って音楽づくりに生かすことができる。 ・目指す音楽をもち、構成の仕方を考えることができる。 ・友達の音楽のよさを音楽の仕組みの視点から見付け、自分の音楽に生かすことができる。(取り入れようとする)	・リズムのつなげ方や重ね方のよさに興味・関心をもって取り組んでいる。 ・目指す音楽づくりに向けて、何度も話し合ったり試したりして進んで取り組んでいる。 ・自分の音楽に思いをもち、友達と話し合いながら活動に取り組んでいる。
C	・音楽の仕組みを理解していない。(知識) ・音楽の仕組みによるよさや面白さに気付いていない。(知識) ・音楽の仕組みを生かしてつくることができない。(技能)	・得た知識を音楽づくりに生かすことができない。 ・目指す音楽をもたず、なんとなく音楽をつくっている。 ・友達の音楽のよさを見付けることができず、自分の音楽に生かすことができない。(思いが広がらない)	・リズムのつなげ方や重ね方のよさに興味・関心がない。 ・目指す音楽をもたず、相手に任せて音楽づくりを進めようとしている。 ・自分の音楽に思いをもたず友達に意見を伝えない。

いろいろなリズムを感じ取ろう(⑥～⑨回)

4年 組 番 名前 ()

♪言葉でリズムアンサンブル

⑥ きく / ()	音楽の仕組みを知り、リズムのつなげ方や重ね方のよさや面白さを調べる			
	・音楽の仕組みについて分かった。	◎	○	△
	・リズムのつなげ方や重ね方の工夫を知ることができた。	◎	○	△
	・音楽のよさや面白さを言葉で伝えられた。	◎	○	△
	分かったこと			
⑦ テーマ決め / ()	音楽の仕組みを使ってクラスでリズムアンサンブルをつくり、テーマを決める			
	・音楽の仕組みを使ったリズムアンサンブルのつくり方が分かった。	◎	○	△
	・クラスのおまつりを、イメージに合わせて表現した。	◎	○	△
	・自分たちの目指す音楽のイメージを具体的にもつことができた。	◎	○	△
	考えたこと			
⑧ つくる / ()	リズムのつなげ方や重ね方を工夫し、グループでリズムアンサンブルをつくる			
	・音楽の仕組みを使ってリズムアンサンブルをつくることができた。	◎	○	△
	・リズムのつなげ方や重ね方を工夫してつくった。	◎	○	△
	・友達の音楽のよさや面白さを見付け、伝えることができた。	◎	○	△
	工夫したこと			
⑨ 発表 / ()	つくったリズムアンサンブルを発表し、よさを見付けながらきく			
	・グループで工夫して考えることができた。	◎	○	△
	・つくったリズムアンサンブルをイメージに合わせて表現した。	◎	○	△
	・友達の音楽のよさや面白さを見付けてきくことができた。	◎	○	△
	考えたこと			